

# 美術科学習指導案

指導者 大竹市立大竹中学校  
生田 泰文

- 1 学年・学級 第1学年2組(30名)
- 2 場所 1年2組教室
- 3 題材名 発見!生活の中の美のツボ
- 4 題材設定の理由

## (1) 題材観

本題材は、新中学校学習指導要領美術第1学年B鑑賞Aを受けて設定したものである。本題材では、生徒が普段の生活の中で何気なく見たり、接したりしている様々なデザインの役割や効果に気付かせ、生活におけるデザインの働きについて理解させることをねらいとしている。

私たちは、日常生活の中で、多くのデザインに囲まれて生活しているが、その価値や働きを感じとりながら生活しているとは言い難い。日常生活におけるデザインの働きについて考えさせることは、生活と美術とのかかわりや、ものづくりの価値に気付かせることにつながり、生徒が自分の生活をより美しく心豊かにしようとする思考力や態度を育てることにつながっていく。本題材は、デザインの能力を高めるだけでなく、生涯にわたって自分の生活をより美しく心豊かなものにし、美術を愛好していこうとする心情を育てることができる題材である。

## (2) 生徒観

本学級の生徒は、デザイン分野の「色彩の性質や感情」を学習し、色彩の感情や三属性、組み合わせによる効果についての基礎的な知識はある。しかし、それらが自分たちの日常生活でどのように活用されているか考えることはあまりないという実態がある。

また、1学期に実施した鑑賞の学習では、生徒は表現活動と同様におおむね意欲的に活動することができた。例えば、素描の学習においては、参考作品を鑑賞したり、生徒同士の作品の相互鑑賞を行ったりした際に、作品に対するそれぞれの思いをもつことができた。

## (3) 指導観

指導に当たっては、生徒の生活とのかかわりを大切にしながら、日常生活の中にある様々なデザインを鑑賞させることによって、それらのよさや工夫点などに気付かせ、デザインが日常生活でどのように活用されているか考えさせたい。

その際、実感をもってよさを感じとらせ、生活におけるデザインの働きをより深く理解させることができるよう工夫したい。

具体的には、実物に触れたり実物を使用する体験活動を行ったり、地域を撮影したビデオなどを効果的に視聴し、その後、生徒自らが生活の中のデザインを見つめ直すなどの実生活につなげた活動を取り入れる。これらのことから、授業での学習が、生徒の生活体験と結び付き、生徒が自分の問題として考えることができるようにしていきたい。

## 5 題材の目標

- ・ 日常生活の中にあふれている身の回りのデザインの工夫について、関心をもって見たり、自分の生活の中から見付けたりすることができる。(関)
- ・ 様々な用いられている生活の中のデザインから、自分の見方・感じ方でよさや美しさを感じ取り、デザインが生活に役立っていることに気付くことができる。(鑑)

## 6 題材の評価規準

〈ア 美術への関心・意欲・態度〉

- ① 身の回りのデザインの工夫について関心をもって見ている。
- ② 工夫されたデザインを、自分の生活から見付けようとしている。

〈イ 鑑賞の能力〉

- ① 自分の見方・感じ方で、よさや美しさを感じ取っている。
- ② 生活の中のデザインが様々な用いられて、生活に役立っていることに気付いている。

7 題材の指導計画 (全2時間)

次	学習内容	評価		
		関	鑑	
1	○ デザインのグループ鑑賞をする。 ○ ビデオを視聴し、生活の中のデザインの工夫に関心を持つ。 (1) 本時	○		【関】 ア①身の回りのデザインの工夫について関心をもって見ている。 (ワークシート, 行動観察)
2	○ マイグッドデザインを紹介し合う。 ○ 様々なデザイン商品を使ってみる。 ○ 学習のまとめをする。 (1)	○	◎	【関】 ア②工夫されたデザインを、自分の生活から見付けようとしている。 (ワークシート) 【鑑】 イ①自分の見方・感じ方で、よさや美しさを感じ取っている。(行動観察) イ②生活の中のデザインが様々な用いられて、生活に役立っていることに気付いている。 (ワークシート, アンケート)

8 本時の展開 (1/2時間目)

(1) 本時の目標

○ 日常生活の中にあふれている身の回りのデザインの工夫について、関心をもって見ることができる。

(2) 本時の評価規準

○ 身の回りのデザインの工夫について関心をもって見ている。(美術への関心・意欲・態度)

(3) 準備物

・生活の中のデザインを収録したビデオ ・デザインの効果を活かした日用品等  
・ワークシート

(4) 学習の展開

	学習活動	指導上の留意事項 (◇) (◆「努力を要する」状況と判断した生徒への指導の手だて)	評価規準 (評価方法) (● 十分満足できる状況の例)
導入	1 鑑賞タイム 2 工夫されたデザインのグループ鑑賞をする。 3 本時の学習目標を知る。 身の回りのデザインの工夫を発見しよう	◇ 生徒が主題に対する課題意識をもつよう、一般的なデザインと比較させるなど、提示方法を工夫する。 ◆ 机間指導を行い、材質や形などの違いに目を向けさせるなど、円滑な話し合いを支援する。	
展開	4 ビデオを視聴し、生活の中にデザインがあふれていることに気付く。 5 鑑賞したモノから、デザインが生活にどのような影響を与えているか考える。	◇ 生徒が日常生活を振り返りやすいよう、身近な生活で接しているものを鑑賞の対象として用意する。 ◆ 説明の前に予想をさせたり、生活を振り返らせたりする。 ◇ 影響別に分類したワークシートを使用することによって話し合う視点を明確にする。 ◆ 工夫がある時とない時をそれぞれイメージさせるなど、考え方のポイントを助言する。	【関】 身の回りのデザインの工夫について関心をもって見ている。 (ワークシート, 行動観察) ● 実際に使用することをイメージすることができる。 ● 自分の身の回りの生活とデザインを結び付けて意見を述べたりまとめたりすることができる。 ● 身の回りのデザインを意識して見つめ直している。
終末	6 本時の学習について振り返る。 7 次時の学習内容を知る。	◇ 分かったことや、疑問点などを記入させる。 ◇ 次時の活動への意欲を持たせる。	